

表1 生育・栽培ステージ（3カ年平均）

試験区名		発芽期		フィルム破れ		雄穂開花期		絹糸抽出期	
		(DAS)	比較	(DAS)		(DAS)	比較	(DAS)	比較
根釧	新100	11	-4	26		86	3	84	4
	露地80	15	(0)	—		83	(0)	81	(0)
	従来85	11	-4	81		77	-6	78	-3
	新90(93)	10	-6	26		82	-9	80	-9
	露地90(93)	16	(0)	—		91	(0)	89	(0)
	従来90(93)	11	-5	93		83	-8	80	-9
天北	新90	6	-13	29		75	2	74	0
	新93	8	-12	29		81	9	80	6
	新95	6	-13	29		76	4	77	3
	新100	6	-13	29		79	7	79	5
	露地80	20	(0)	—		72	(0)	74	(0)

注) DASは播種後日数を表す。フィルム破れはフィルムが完全にはがれた日とした。試験区名の数値は品種のRM(カタログ値)を示す(図2, 3も同じ)。処理名は、栽培法と供試品種のRM(相対熟度。数値が小さいほど早生)のカタログ値)との組み合わせで表した。

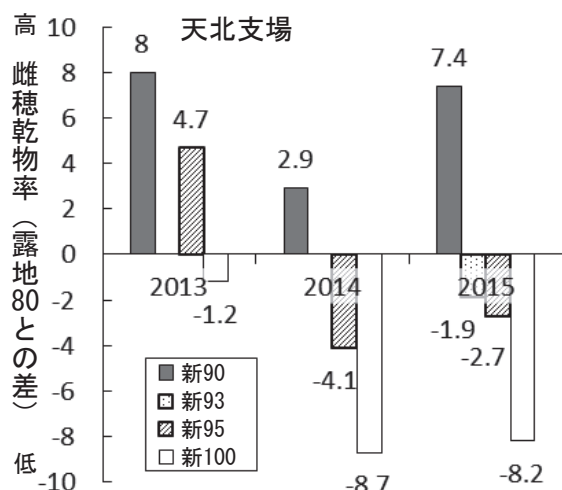


図1 新マルチ栽培における品種熟期ごとの雌穂乾物率(無マルチ栽培との差)

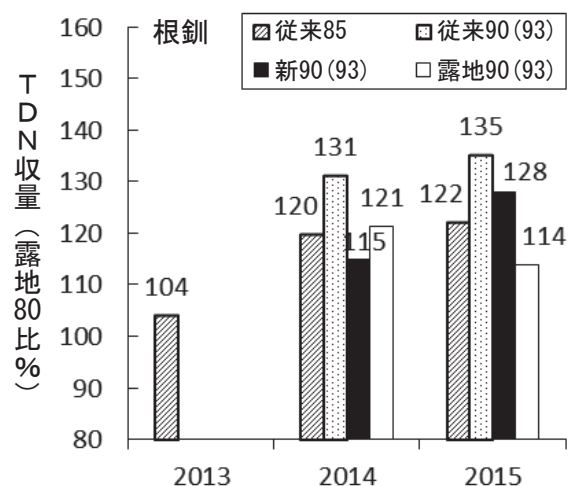


図2 栽培法ごとのTDN収量(無マルチ栽培との比)「90(93)」は、用いた品種が年次によって異なったことを示す(2014: RM90日クラス、2015: RM93日クラス)

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。

道総研根釧農業試験場 研究部 飼料環境グループ 林 拓

電話 (0153) 72-2004 FAX (0153) 73-5329

E-mail: hayashi-taku@hro.or.jp